

愛知医科大学 学報



モネの池にさくら 平松礼二画伯
(中央棟2階患者待合)

＝ 第141号 ＝

2016. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ.....	2
三市合同消防訓練実施.....	9
平成28年度学年歴.....	13
平成28年度入学試験開始.....	14
世界糖尿病デー in 愛知医大	21
教育・研究最前線「法医学講座」.....	38



—新年のごあいさつ—

理事長 三宅 養三

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

平成26年5月に完成した新病院は、当初は新しく導入した電子カルテや新病院の誇る物流・動線に不慣れなこともあり少しもたつきましたが、開院後1年を経て本格稼働となり持てる機能を最大限に発揮して、効率的で高収入体質への構造改革を期する年度となりました。入院患者数は、平成27年9月以後は新病院開院後最大値を示すこともあり、また、外来患者数も着実に増加するなど新病院の稼働が力強く伝わって参りました。こうした中、本年度の収支見込みは上半期の好調さに加え、下半期診療単価の一段の向上等により、予算に掲げた収支差の確保が期待される所であり、これもひとえに職員の皆さまの献身的なご努力のおかげと厚く御礼申し上げます。

新病院は、外来患者さんに対してNAVITを使用した院内での待ち時間の有効利用が図られるばかりか、著名画家の絵画を多数展示し、オアシスのような気分が満喫できます。特に、私の盟友であり、現在日本で最も脚光を浴びている一人である平松礼二画伯の作品が開院時の9点に加え、平松画伯の更なるご厚意により、昨年9点が追加され18点の展示となり、平松礼二ギャラリーとして患者さんに楽しんで頂いております。平松画伯に厚く御礼申し上げます。

しかしながら、愛知医科大学の発展はまさにこれからで、現在はその基盤を着実に作っている最中であり、ここで、私の本学の将来構想を少し述べさせていただきます。現在の日本の医科大学の置かれた状況は極めて厳しいものがあります。国からの補助金は、国民総生産（GDP）との比率で見ますと先進国では最も低く、また、産業界や一般からの寄附も近年激減し、米国、英国に比べると微々たるものであります。一方で、診療報酬、消費税等も大学の経営を圧迫する方向で動いております。特に私立医科大学は、経営の安定は自力で図らねばならず、経営難では満足な臨床、研究、教育ができない状態となります。職員の待遇も欧米に比べ決して良いとは言えません。日本では、開業医や一般病院の勤務医に比べ大学人

の給料は低く、このような環境下でどのようにして大学人のモチベーションを維持させるかが、これからの最も大きな課題となります。

私はモチベーションの維持には、大学人として満足できる臨床、研究、教育が可能な環境整備が最も大切であると思います。医科大学の責務は、先端医療、地域医療を含む充実した「臨床活動」、世界に発信できる「臨床研究」、それによい人材を輩出する「教育」です。これらが可能となるような環境作りに収益を有効活用することだと思います。新病院は、まさにこれらの点を考慮した最高の舞台であり、経営を安定させ、大学にしかできない、大学にいて良かったと思える体制作りを推し進め、職員の皆さまにはこの舞台で大いに活躍してほしいと思います。このように舞台が整い、後は一番大事な役者（人）であります。幸いにも、昨年度は腎移植外科、整形外科、心臓外科、眼科の重要な四つの外科系講座、またこれからの活性が大きな課題になっていた救命救急科に卓越した教授を新たにお迎えすることができ、今後のご活躍が期待されます。

昨年度は、シミュレーションセンターや国際交流センターの開設等、新時代の医療人育成事業がスタートするとともに、研究活動の振興策により科学研究費の申請件数が大幅に伸びる等、教育・研究活動が活性化して参りました。また、大学本館7階にある多くの研究室を研究棟に移し、これに伴い研究棟を再整備し、本館7階を大きな学生のセミナー室にする準備を進めており、学生たちが静かな環境で勉学に熱が入ることを期待しております。また、AB病棟等解体に伴うその後の土地利用、大学の診療や教育に必須となってきた第二病院や後方病院構想等が今後の喫緊の課題となってきており、既に具体的な案が着々と作成されつつあります。

どうか皆さまにおかれましては、新病院を基盤とし新たな発展を見据えた本学の事業展開と将来構想に、格別のご協力を頂きますようお願いいたします。新年のごあいさつとさせていただきます。



一年頭ごあいさつ

学長 佐藤 啓二

あけましておめでとうございます。今年も皆さまにとって明るい希望に満ちた年になりますようお願いしております。新しい年の幕開けとともに、本学がこれから取り組むべき諸問題を確認していきたいと思っております。

社会情勢と対応

国家の借金と位置付けられる普通国債の発行残高が1,000兆円を超え、今後も伸び続けることが予想されています。そのためプライマリバランスの黒字化が喫緊の課題とされ、安部内閣は「骨太の方針2013」において2020年度までに黒字化をする方針を打ち出しました。2015年度に約40兆円を超える医療費は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年度には、54兆円にも達するとされており、歳出の具体的削減策として、医療費削減は最大の課題と位置付けられています。これを受け、2013年度に19万床であった高度急性期病床数は、2025年度には13万床まで削減する目標が設定されており、高度急性期医療を担当する病院の絞り込みが激化すると言われております。本学は、尾張東部医療圏において、救急医療・手術治療を中心とした高度急性期医療を担当するにふさわしい医療機関として、確固たる地位を築いておかなければならないと考えています。

医学生数については、2007年度まで7,625名であったが、以後急激に増加し、2017年度は9,487名になります。毎年25%増の状態で医学生が増加すれば、質低下が危惧されるほか、卒業後の医師数増加に伴って、都市部での勤務や開業が困難になる可能性があり、更に給与低下等が予想されています。したがって、本学卒業生が卒後研修に関して不利益を被らないよう、関連病院の整備を進めているところです。

教育

岡田尚志郎医学部長の下、医学教育の国際標準化に向けた努力が精力的に続けられており、大変期待が持てる場所です。一方ITの進歩に伴い、医学・看護学教育へのIT教育導入が必須となっております。IT教材を利用すると、自己学習だけでなく、自己評価・弱点の気づき等にも利用でき、更に教員評価もリアルタイムに行える利点があります。

IT教育を基盤として、医学情報センター（図書館）

や医学教育センターの機能を再検討するべき時期ではないかと考え、意見集約を図っています。

研究

講座の主任教授が、講座内の教育・研究・診療の全体最適を考えるという時期は終わったと考えております。DPC導入後、生き残るために病院長の下で、診療に関する全体最適を組織横断的に行う必要が生じました。研究についても、1講座内で完結するものではなく、Skillをもった研究者がユニットを組んで研究を行うことにより、より優れた研究がより短期間で成し遂げられます。若手研究者に対しては、研究相談や研究指導を組織横断的に行うことが必要であり、そのための基盤整備が求められていました。来たる平成28年度には、「研究創出支援センター」が活動を始めます。研究に関するOne stop service拠点となるよう、産学連携・知財管理の拠点であるとともに、研究URAを置き、研究指導教員を配置することにより、若手研究者支援を進めていこうとしています。また、共同実験室を整備し、使いやすい環境としております。平成26年度の科学研究費申請件数はJump up作戦により、昨年度と比較して40%超増加しました。研究URAの更なる努力を得て、平成28年度は220件を目標としております。また、貴重な症例のサンプルをバイオバンクとして保存し、将来を担う研究者への支援としたいと考え、準備を進めております。

診療

新病院開院後1年8か月が経過しました。各種指数（病床稼働率、平均在院日数、外来患者数、手術件数、入院単価、外来単価等）は全て良い方向に動いており、私立医科大学29校中トップ10に近づいています。「愛知医科大学はここまでやれるのだ。」というプライドを掛けた競争だと思っておりますが、職員の皆さまには負荷を減らした効率の良い医療を実現することも必要ですので、更なる改善を進めていきたいと思っております。

愛知医大は、教育・研究・診療の全てで勝ち抜ける組織として変わりつつあります。三宅養三理事長の下、All Aichi Idaiとして力を合わせて頑張ってください。



—今こそ愛知医科大学医学部が 大きく飛躍する絶好の機会である—

医学部長 岡田 尚志郎

新年明けましておめでとうございます。

我が国においては、少子高齢化が急速に進行しつづけます。中でも18歳人口は、2015年末で約118万人であるのが、2018年以降減少に転じ、10年後には110万人以下に減少し、20年以内には100万人を割り込むことから、大学進学者の大幅な減少が予想されています。更に2020年から、大学入学試験制度が大きく変わる転換期にあつて、全国の大学が文字通り生き残りをかけて志願者確保のための改革を進めています。本学においても、まず医科大学としての基本機能である教育及び研究の維持向上を図ると同時に、優れた資質や能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備が喫緊の課題となります。

教育においては、2015年4月から本格的に始まった国際認証受審のための準備が、新年度の大幅なカリキュラム改訂となって結実しつづけています。今回の国際認証で求められている医学教育のグローバルスタンダードは、「入学した学生がいかんして卒業時まで臨床医として最低限必要とする能力を修得できているか」、その過程を明らかにするよう求めており、その結果として「学生が卒業時に初期研修医並の臨床能力を有すること」を達成できなければなりません。そのために全国規模で4学年次生時にCBT・OSCEが本格的に導入され、合格者はスチューデントドクターとして、5学年次生時以降クリニカルクラークシップに従事することになります。

本学は、平成30年度受審をめざし、医学教育強化推進委員会において達成すべき基本的水準について継続的に検討してきました。とりわけ国際認証で最も重要な項目である臨床実習内容の充実について、学外実習病院の確保や、実習内容の総点検、到達目標の設定などに着手し、一定の成果が上がってきております。また、臨床実習の充実のみならず、低学年時において既に稼働している「医療人入門」や「臨床入門」に加えて、「行動科学」など本学医学部の独創的な取り組みによる新たなカリキュラムモデルの確立を通じて、教育の質の向上を目指しております。ともあれ国際認証を受審するためには、教職員、同窓生及び保護者の一人ひとりが当事者意識を持

って目標に向けて取り組むこと、特に学部間、講座間、教職員間においては、お互いの協働が不可欠であり、基礎科学、基礎医学そして臨床医学に携わる教員が一丸となって、医学部を挙げて取り組むべき絶好の機会であると思います。

研究においては、2015年12月に文部科学省より公表された調査報告書である「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」が本学の研究における現況を的確に表していると思います。残念ながら、本学は論文の執筆数及び質のいずれにおいても全国の私立医科大学の中で最下位に甘んじています。

今ここで抜本的な対策を講じなければ、本学の研究基盤は、2015年4月から活動を開始した「国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）」による医療分野の研究開発に関わる競争的研究資金の集中化の波に呑み込まれて、取り残されてしまうのではないかと危惧しています。ではどうすれば良いのでしょうか。月並みですが、まず原点に戻ってみてはいかがでしょうか。大学の教員と高校の教員の一番の相違点は、大学の教員は教育者であると同時に研究者であること、すなわち大学は学問をやる所であり、個々の教員が自由な発想のもとで研究することが保障された職場であるという原点です。個々の教員がprincipal investigatorとしての気概を持って行う研究は、本学の教育と診療を牽引するきっと大きな原動力になると思います。そのための様々な研究者支援、研究環境整備を進めていくことは言うまでもありません。

良い大学とは、どれだけ良い学生を受け入れ育てられるかにかかっていると思います。本学の教育及び研究の更なる発展・向上を図ろうとする今こそ、教職員が「一人ひとりが愛知医大」という当事者意識を持って行動できる医学部になれる絶好の機会だと思います。



— 愛知医科大学病院がめざす 新しいかたち —

病院長 羽生田 正行

2016年が始まりました。一昨年5月に開院した新病院も、昨年後半からようやく安定した高い稼働状況となりました。病院職員を始め、ご支援頂いている皆さまに深く感謝申し上げます。

さて、2016年の病院はどのようになっていくでしょうか。まず、外観ですがキャンパス整備の一環として旧A・B病棟が解体され、バス等の乗り入れが今まで以上に効率的にできるロータリーが整備されます。これにより瀬戸市、尾張旭市と長久手市にできるいくつかの新しい商業施設が結ばれることになり、本院のハブ化が進むのではないかと期待しています。もちろん患者さんやお待ちになる方々のためにアメニティ棟も整備され、買い物や食事ができるようになります。

一方、診療体制も更に充実してきています。昨年は、外科系及び救命救急分野に5人の新部長が就任され診療を開始しました。それぞれ各分野のスペシャリストであり、これまで以上に地域の皆さまを始め、多くの患者さんに高度な医療を提供できる体制が整ってきました。また、本院の運営上も診療単価を押し上げることが期待される診療科であります。就任2年目となる今年は、一層活躍して頂けることを期待しています。

病院としてはこのように順調にきていますが、2016年に取り組みなければならない点はまだまだあるのが現状です。最初は、この春に行われる診療報酬改定です。本院は、機能評価係数IIが他の大学病院と比較して低い状況が続いています。これは、機能評価係数IIを構成する「保険診療指数」、「効率性指数」、「複雑性指数」、「カバー率指数」、「救急医療指数」、「地域医療指数」、「後発医薬品指数」の7項目のうち、後発医薬品指数と複雑性指数が低いことが大きな要因です。外来で院内処方を採用している本院ですが、本年より平成30年の診療報酬改定で後発医薬品指数をしっかりと獲得できるように、ジェネリック医薬品の導入を積極的に進めていく予定です。

一方、複雑性指数を上げることは、病院の疾患構成を変えなければならず、すぐには難しいのが現状です。しかしながら、方針としてはがん診療や3次救急の割合を

増加させていく必要があると考えています。現在本院は愛知県の地域がん診療病院に指定されております。これを踏まえ、次期は国のがん診療連携拠点病院に指定されるべく体制の整備を早急に行い、地域におけるがん診療の拠点としてがん診療患者数を増加させたいと考えています。また、救急医療の充実には各診療科や専修医、研修医の協力が不可欠です。病院全体で取り組む姿勢を明確にして、救急車の円滑な受け入れ、ドクターヘリの運用を支援していきたいと考えています。

もう一つ取り組まなくてはいけない問題は、消費税増税への対策です。8%への増税の際に、病院に対する診療報酬上の手当が十分でなく、各大学病院では数億円の損税が生じました。更なる増税に対し、診療報酬上の手当を十分に頂けることは絶対に必要ですが、病院としても高額機器整備の時期等を十分に考慮し、少しでも病院への影響を軽減したいと考えています。

最後になりましたが、2016年も皆さまと一緒に活気ある元気な愛知医科大学病院でありたいと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



－看護学部からの 新年のごあいさつ－

看護学部長 衣 斐 達

平成28年年頭に当たり、皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。

愛知医科大学病院が開院2年目となり、病院実績が着々と伸び、躍進の新年を迎えました。

看護学部では、平成28年1月16日(土)・17日(日)に大学入試センター利用入試、平28年1月24日(日)に一般入試が実施され、優秀な学生の入学が期待されます。一方、本学部4学年次生は保健師課程選択制となった最初の学年であり、平成28年2月14日(日)に看護師、平成28年2月16日(火)には保健師の国家試験に向け、全員合格をめざして受験勉強のラストスパートに入っています。

愛知県の看護系大学は現在11校ですが、平成28年度には新たに1校が開校し、今後も更に2校が開設準備中です。また、岐阜県には7校、三重県には4校と少子高齢化が進む中で、東海地区は看護系大学が過密状態となっており、学生の獲得競争が激化し、教員の獲得も困難になっています。本学が他校との競争に生き残るためには、入試、学部教育、大学院教育、看護実践研究センター教育、研究、地域貢献において、一層の工夫と努力が求められます。

看護学部では、豊かな人間性を涵養し、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、ヒューマンケアを提供できる看護専門職を育成するとともに、専門職者として創造的・発展的に実践能力を身に付けることを教育理念としております。入試では、理系・文系にわたり幅広く学生を募集するため、一般入試では、国語と数学の選択、理科は基礎3科目の選択としております。また、オープンキャンパス、一日体験入学、高校への出張講義など通じて、本学の魅力の発信に努めています。

学部教育では、国家試験100%合格を目標とすることはもちろんですが、留年生対策とともに優秀な学生を伸ばす教育が重要になり、アドバイザーを始め各教員のきめ細やかな教育指導や、海外短期留学、ICT機器の導入・整備、FD活動などにより、質の高い教育を実施してきました。少子高齢化などの社会変化に対応し、教養科目、専門基礎科目、看護専門科目群を体系的に配置し、看護実践能力をより高めるためのカリキュラム改正を平成29

年度から実施する準備をしております。

大学院教育では、高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成するために、修士論文コースに加え、高度実践看護師課程として感染看護学専門看護師(CNS)コースとクリティカルケア[周術期]診療看護師コースを開講しております。

診療看護師コースでは、平成27年10月に厚生労働省から特定行為21区分の指定研修機関の認定を受けたことにより、同コースの修了生は、診療看護師として更なる活躍が期待されています。また、本研究科では、働きながら就学ができるように授業を夜間や土曜日などに開講し、希望者には長期履修制度も利用することができます。更に現在の複雑化した保健医療福祉環境に対応し、修士課程修了者の学術的取り組みを更に発展させる研鑽の場として、質の高い教育研究者を養成するために、博士課程の設置についても検討を行っております。

看護実践研究センターは、認定看護師教育部門、卒後研修・研究部門、地域連携・支援部門からなり、感染管理及び救急看護分野での認定看護師の養成、看護実践の開発に関わる教育・研究支援事業、地域住民に対する生涯学習事業や健康増進のための支援事業を展開しております。

結びに、将来の看護医療への展望を述べさせていただきます。西洋医学は、感染症や外傷など急性期医療には有効ですが、対症療法が主体なため慢性疾患に対しては弱点があります。現在の高齢化社会の中で、今後はがんを含めた生活習慣病の予防・健康増進と、自然治癒力(自己再生能力と免疫力)を高める医療が求められます。そのためには競争・効率化・孤立化などのストレス社会からの脱却、西洋型の高カロリー食生活の改善が必要であり、疾病だけを診るのではなく、人間の身体・精神のみならずスピリチュアルな面を含めた全人的医療として、看護においても人間を包括的にケアすることが重要であると考えています。

看護学部の学生・職員のみならず、医学部、病院関係者の皆さまのご協力によって看護学部が成り立っておりますので、本年も引き続きご支援、ご指導宜しく申し上げます。

丹羽滋郎名誉教授 御逝去



丹羽滋郎名誉教授（整形外科科学講座）が平成27年12月2日に御逝去されました。享年84歳でした。

丹羽先生は、昭和33年3月名古屋市立大学を卒業され、昭和47年本学創立に際し助教授として赴任されました。昭和50年12月に同講座教授に就任され、21年にわたり医学部整形外科学講座の発展に尽力されました。

膝関節外科を通じて、多くの優秀な弟子を育てられた臨床医・指導者であるとともに、生体親和性材料の開発で世界をリードされた研究者でもありました。更

に時代に先駆けて中国との国際交流を推進された国際人でした。また、運動療法の重要性を認識され、リハビリテーション部・部長として活躍されるとともに、運動療育センターの構想・実現に尽力された先駆者でもありました。

学会活動としては、6件の国内学会・研究会と3件の国際学会を主催され、整形外科科学の発展に寄与され、平成23年瑞宝小綬章の叙勲を受けられておられます。

丹羽先生が築き、育ててこられた整形外科科学講座を守り、発展させることを誓い、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

平成27年12月17日（木）午後6時から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた73名の諸先生方は、久しぶりにお顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに三宅養三理事長からあいさつがあり、続いて、

坂井克彦理事の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、今年度新たに教授に就任された先生やご参加頂いた理事・名誉教授等の各先生から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に祖父江逸郎名誉教授からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

平成28年新年祝賀式

平成28年1月4日（月）午後2時から、大学本館たちばなホールにおいて新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、三宅養三理事長及び佐藤啓二学長から年頭あいさつが行われました。始めに三宅理事長から「平成26年5月に完成した新病院は、開院後約1年半を経て本格稼働となり持てる機能を最大限に発揮し、効率的で高収入体質への構造改革が進みつつあります。これもひとえに全職員の献身的な努力の賜物であります。しかしながら、本学の発展はまさにこれからで、現在はその基盤を着実に構築している最中であり、この環境下でどのようにして大学人のモチベーションを維持させていくかが今後の課題であり、新病院の優れた機能を大いに活用し、先端医療、教育・研究、地域医療、救急医療等のすべての分野において、飛躍的な発展を成し遂げていくためにも、必要な環境整備を推し進めていきたいと考えておりますので、全職員の更なるご協力をお願いしたい。」とあいさつがあり、続いて、佐藤学長から「愛知医科大学は、全職員が力を合わせ、知恵を出し合い、工夫と努力とチームワークの賜物によって、他のどこにも



負けない大学・病院として発展し続けております。今年も更なる高みを目指す一策として、平成28年4月には、研究創出支援センターを立ち上げ、研究支援体制の整備・支援に必要な教員の配置・関連組織の整備・バイオバンクの創設を柱として、研究分野の強化も推し進めていきたいと考えておりますので、今年もオール愛知医大として成果を出していけるよう、全職員の更なるご協力をお願いしたい。」とあいさつがありました。

役員・評議員の改選 —理事長に三宅養三理事を再選—

平成28年1月12日（火）に開催された理事会、評議員会において、平成28年1月27日付け任期満了に伴う役員及び評議員の改選が行われ、平成28年1月28日付けで以下の方々が就任されました。なお、任期は、平成28年1月28日から平成31年1月27日までの3年です。（非改選は除く。）

また、平成28年1月28日（木）に開催された開催の理事会において、三宅養三理事が理事長に再選されました。なお、任期は、平成28年1月28日から平成31年1月27日までの3年です。

【理事】

〈平成28年1月28日現在〉

選任区分	氏 名
学長	佐藤啓二（非改選）
評議員のうちから評議員会において選任	衣斐 達、岡田尚志郎、小出龍郎、島田孝一 土井清孝、羽生田正行、羽根田雅巳、若槻明彦
学識経験者のうちから理事会において選任	坂井克彦、那須國宏、柵木充明、三宅養三 柳田昇二、山内一征

【監事】

選任区分	氏 名
法人の理事、職員又は評議員以外の者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任	横地高志、林 清博（非改選）

【評議員】

選任区分	氏 名
法人の職員で理事会で推薦された者のうちから評議員会において選任	石口恒男、衣斐 達、岡田尚志郎、小池三奈美 佐藤啓二、佐藤元彦、島田孝一、白鳥さつき 羽生田正行、羽根田雅巳、細川好孝、八島妙子 山口悦郎、若槻明彦
この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25年以上のものの中から理事会において選任	神谷美帆、小出龍郎、藪下廣光
学識経験者の中から理事会において選任	市川義彦、大輪芳裕、黒江幸四郎、齋藤征夫 坂井克彦、櫻井 敏、笹本基秀、杉田洋一 土井清孝、那須國宏、柵木充明、三宅養三 柳田昇二、山内一征、山中智津子、山村恵子

退任理事：山岸赳夫、渡辺俊也

退任監事：伊藤 元

退任評議員：上田龍三、小林章雄、茅喜田恵子、山岸赳夫、渡辺俊也

三市合同消防訓練実施

平成27年11月8日（日）本院において、瀬戸市、尾張旭市、長久手市による三市合同消防訓練が実施されました。

当日はあいにくの雨となり、予定していた愛知県の防災ヘリの出動は見送られましたが、悪天候にも関わらず各市の消防職員、消防団員の皆さんが熱心に訓練に取り組みました。

訓練内容としては、中央棟6階西側付近及び駐車場の屋上で放火により出火。本学職員が通報するとともに初期消火活動及び非難誘導をするも火災が急激に延焼拡大

したため、逃げ遅れた者や負傷者が発生。はしご車により救助し、救出された逃げ遅れた者を仮想病院へ搬送するという設定で行われました。搬送後は、消防車両から一斉放水が行われ、訓練終了となり、見学者から盛んな拍手がありました。

訓練終了後には、来賓及び代表者等による意見交換会も開かれ、本院からも羽生田正行病院長を始め5名が参加し、和やかな雰囲気の中にも活発な意見交換がなされました。



平成28年長久手市消防出初式

平成28年1月10日（日）長久手市北小学校において、長久手市消防出初式が行われ、本学自衛消防隊12名が参加しました。

式は、地域の子供会の児童たちが「出初式」のプラカードを持っての分列行進から始まり、観閲・表彰・一斉放水へと進み第一部が終了しました。本学自衛消防隊は、消防署・消防団・女性消防クラブ・応急救護ボランティアに続いて、入場行進の最後尾を飾ることとなり、勇姿を披露することができました。

また、第二部では、長久手市の中学生による吹奏楽の演奏後、消防防災団体による展示、消防防災体験が各イベントブースで行われ、集まった大勢の市民で賑わいました。

地域貢献、防災意識の普及高揚を図り、災害のない街づくりの発展に寄与することを目的に、これからも事業所自衛消防隊としての参加を予定していますので、ご協力の程お願いします。



入場行進



記念撮影

愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心して安全なまちづくりに大きく貢献したことに對して、平成28年1月15日付けで愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。

これは、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学が定期的に医学部、看護学部の学生を対象に警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故を防止するための交通マナーの普及及び交通安全意識の高揚を図ることに努められていることに對して贈られたものです。

本学は医科大学として、医療だけでなく、地域住民の



皆さんとともに安心・安全な生活が守られるよう、今後とも様々な方面で貢献して参ります。

平成27年度永年勤続者表彰

平成27年11月20日（金）大学本館たちばなホールにおいて、平成27年度永年勤続者表彰式が行われました。

三宅養三理事長から表彰状が授与され、「職員の努力により、病院の活力がぐんぐんと上がり始めてきています。歴史には波があるものですが、これからどんな厳しい時代が来たとしても、波の少ない安定した経営をして、皆さんが安心して働いていける大学を目指しています。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、看護部杉江直美副部長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる杉江副部長

30年勤続者（15名）

青山めぐみ	衣斐 達	小澤千恵美	小池三奈美	後藤 淳	小林 千尋	杉江 直美
田中 竜二	中込 祐治					

20年勤続者（24名）

朝倉あゆみ	今村 明	岩井 雅枝	加藤 典子	金岡 正枝	金田 直樹	河内亜由美
國枝 美雪	清水 由希	田中 教代	長坂 泰利	西村 直記	二宮 尚美	原田美由紀
東 里和	平松みどり	松下 愛	山田佳世子	油井 淳	吉野 恵子	

10年勤続者（56名）

新井 健一	有田 亜紀	石居謙太郎	伊勢谷昌弘	伊藤 友香	稲熊 真悟	岩瀬 敏
大場 理	大平 正宏	岡本 雄一	柿崎 裕彦	加藤千香子	加藤ちひろ	河津 奈深
木下 智美	小松 一喜	小松 克弘	近藤 朋志	佐伯 貴子	坂田 美樹	坂梨 大輔
佐藤 輔	竹内麻美子	玉置奈穂美	田野 理絵	長岡 史晃	中津 雅人	成瀬 真代
西村 美帆	野々垣知行	萩原 真清	浜田 朋子	早崎 祥子	日々野知絵	藤井 沙苗
藤原 祥裕	山田 哲也	吉永 梓生	若槻 明彦			

(95名：五十音順・敬称略) ※氏名掲載は希望者のみ

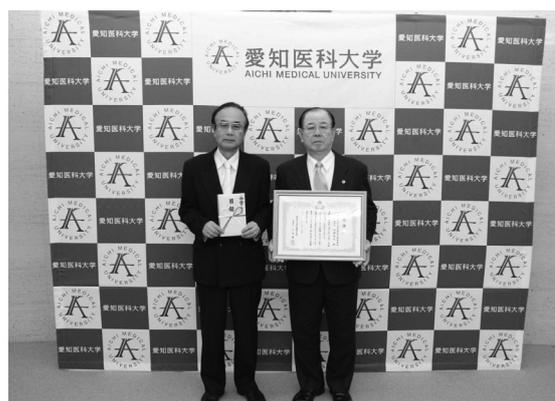
寄附目録贈呈式

一般財団法人愛知医科大学愛恵会から本学に対して特定寄附金1億500万円の申し込みがあり、平成28年1月27日（水）役員会議室において寄附目録の贈呈式が執り行われました。

贈呈式では、（一財）愛恵会の山岸赳夫理事長からあいさつ及び寄附の趣旨説明があり、本学の三宅養三理事長に寄附目録が贈呈されました。これを受けて、本学からは感謝状が渡され、寄附の趣旨に沿って有効に使わせて頂く旨の謝辞が述べられました。

今回の寄附は、教育研究（若手研究者育成）及び国際交流に使われることを目的としたもので、今後の当該事業の発展が期待されます。

式には、（一財）愛恵会から山岸理事長を始め、理事3名、評議員2名、監事1名、本学側からは三宅理事長を始め、佐藤啓二学長、島田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長、関係事務部門室・部長3名が出席しました。



記念撮影
三宅理事長（左）と山岸理事長（右）

愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）開催

平成27年11月28日（土）長久手市文化の家「光のホール」において、愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）が開催されました。

今年の公開講座は、「ひざの痛み」なくして伸ばそうあなたの健康寿命！」と題した講演を行い、約90名の市民の方々にご参加頂きました。

始めに、吉田一平長久手市長から開講のあいさつがあった後、医学部整形外科学講座の出家正隆教授からひざの痛みに関する基礎知識、診断・検査から治療方法までの流れ、ひざ関節痛を予防する方法など、実際の症例を踏まえながらの講演がありました。

受講者からは、「とても分かりやすい内容だった。」「今後もあらゆる分野の講座を開催して欲しい。」などの感



講演する出家教授

想を頂きました。

本学では、今後とも長久手市と連携して公開講座を企画していく予定です。

医学生，研修医等をサポートするための会開催

平成27年11月18日（水）午後5時30分から大学本館202講義室において，愛知県医師会主催，日本医師会・愛知医科大学共催による「医学生，研修医等をサポートする会」が開催されました。

当日は，本学における女性医師支援の現況報告や実際に保育所を利用している教員による講演が行われ，参加した医学部学生や研修医を始め，教職員など約70名が参加しました。

男女共同参画プロジェクト委員会では，今後も職場の環境改善を必要とする教職員のために様々な企画を立案・実施していきます。



本学の取り組みを紹介する若槻教授

＜講演・座談会＞

- ◆総合司会 若槻 明彦
産婦人科学講座・教授／副学長／男女共同参画プロジェクト委員会委員長
- ◆開会の辞 山本 楯
愛知県医師会副会長

◆講演1

「当院における女性医師支援の現状と今後」

- 講師 今村 明
プライマリケアセンター教授(特任)・部長

◆講演2

「女性医師が働き続けるために」

- 講師 岩崎 愛
産科・婦人科助教

◆講演3

「研修医及び後期研修医と運営からのメッセージ」

- 講師 角田 拓実
大学院医学研究科学生
- 講師 古川和香奈
研修医

- ◆閉会の辞 伊藤富士子
愛知県医師会理事



今村教授（特任）



岩崎先生



角田先生



古川先生

平成28年度学年暦のご紹介

平成28年度の医学部及び看護学部的主要な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月1日 〃	前学期開始 白衣式
4月2日	入学式
4月4日・7日・8日 4月5日～4月6日	新入生ガイダンス 1学年次合宿
4月8日・4月11日	学生定期健康診断
5月20日 5月27日	6学年次総合試験A 3学年次定期試験
6月6日～6月8日	1学年次早期体験実習(看護体験)
7月4日～7月22日	4学年次定期試験
7月19日～7月22日	1学年次定期試験
7月23日	6学年次pccOSCE 夏季休業
8月29日～9月9日	2学年次定期試験
9月2日	5学年次臨床実習試験A
9月5日～9月9日 〃	1学年次定期試験 4学年次学外体験実習
9月6日～9月16日	3学年次学外体験実習
9月12日	後学期開始(1・2学年次)
9月12日・9月16日	1学年次早期体験実習(臨床科)
9月26日～10月12日	3学年次定期試験
10月3日～10月14日	4学年次定期試験
10月17日	後学期開始(3～6学年次)
10月17日～10月18日	6学年次第1回総合試験B
10月19日	4学年次共用試験CBT
10月20日	総合防災訓練(1～4学年次)
10月28日 〃	解剖慰霊祭 3学年次定期試験
10月29日～10月30日	医大祭
11月21日～11月22日 11月24日～11月25日 11月26日 〃	6学年次第2回総合試験B 3学年次定期試験 1学年次アーリーエクスポージャー 4学年次共用試験OSCE 冬季休業
1月4日～1月13日 1月4日～1月10日 1月5日 1月10日	1学年次定期試験 3学年次定期試験 4学年次白衣式 5学年次臨床実習試験B
1月20日～2月1日	2学年次定期試験
2月4日	5学年次臨床実習試験(追再試験)
2月6日～2月17日	2学年次学外体験実習
2月8日・2月10日	3学年次定期試験
2月13日～2月17日 〃	1学年次定期試験 3学年次クリクラ体験実習
2月20日～3月3日	2学年次クリクラ体験実習
3月4日	卒業証書・学位記授与式
3月6日～10日	3学年次クリクラ体験実習 春季休業

看 護 学 部	
4月2日	入学式
4月4日～4月5日 4月4日 4月6日 4月7日 4月22日 4月28日	新入生ガイダンス 前学期授業開始(2・3・4学年次) 新入生研修(1学年次) 前学期授業開始(1学年次) 学生定期健康診断(2・3学年次) 学生定期健康診断(1・4学年次)
7月11日～7月15日 7月14日～7月15日 7月25日～7月29日	2学年次定期試験 4学年次定期試験 1・3学年次定期試験 夏季休業
9月16日	後学期授業開始(1～4学年次)
10月8日	キャンドルセレモニー(2学年次)
10月20日	総合防災訓練(1・2学年次)
10月29日～10月30日	医大祭
12月13日～12月19日	2学年次定期試験 冬季休業
1月30日～2月2日	1学年次定期試験
2月9日～2月10日	3学年次定期試験 春季休業
3月4日	卒業証書・学位記授与式

平成28年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●推薦入学試験

<公募制>

- ①試験日 平成27年11月21日(土)
- ②志願者数 83名
- ③受験者数 82名
- ④合格者発表 平成27年11月26日(木)
- ⑤合格者数 25名

●一般入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成28年1月19日(火)
- ②志願者数 2,186名
- ③受験者数 2,121名
- ④第2次試験受験資格者発表

平成28年1月25日(月)

- ⑤第2次試験受験資格者数 424名

<第2次試験>

- ①試験日 平成28年1月28日(木)・29日(金)
- ②合格者発表 平成28年2月4日(木)

●大学入試センター試験利用入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成28年1月16日(土)・17日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表

平成28年2月4日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成28年2月10日(水)
- ②合格者発表 平成28年2月18日(木)

●愛知県地域特別枠入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成28年1月16日(土)・17日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表

平成28年3月7日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 平成28年3月10日(木)
- ②合格者発表 平成28年3月17日(木)

《看護学部》

●推薦入学試験

<指定校制>

- ①試験日 平成27年11月7日(土)
- ②志願者数 12名
- ③受験者数 12名
- ④合格者発表 平成27年11月17日(火)
- ⑤合格者数 12名

<一般公募制>

- ①試験日 平成27年11月7日(土)
- ②志願者数 52名
- ③受験者数 52名
- ④合格者発表 平成27年11月17日(火)
- ⑤合格者数 19名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 平成27年11月7日(土)
- ②志願者数 9名
- ③受験者数 9名
- ④合格者発表 平成27年11月17日(火)
- ⑤合格者数 3名

●一般入学試験

- ①試験日 平成28年1月24日(日)
- ②志願者数 534名
- ③受験者数 530名
- ④合格者発表 平成28年2月5日(金)

●大学入試センター試験利用入学試験 (A方式・B方式)

- ①試験日 平成28年1月16日(土)・17日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式：
平成28年2月5日(金)

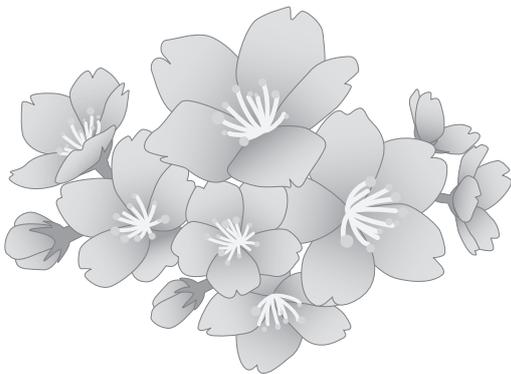
《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 募集人員
基礎医学系、臨床医学系各専攻合わせて17名
- 出願期間
平成28年1月4日(月) から
平成28年1月13日(水) まで【必着】
- 入学者選考方法
入学者は、学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 平成28年2月5日(金)
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10:00 } 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は、英語一ヶ国語のみによる試験又は英語と日本語の二ヶ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 }	面接試験(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)

- 合格者発表
平成28年2月19日(金) 午後1時
- 入学手続期間
平成28年2月29日(月) から
平成28年3月7日(月) まで
- 出願書類提出先
愛知医科大学医学部庶務課大学院係



《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 募集人員
母子看護学(母性)、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、地域看護学、感染看護学、クリティカルケア看護学の各領域合わせて8名
※クリティカルケア看護学領域は、高度実践看護師コースのみ募集
- 出願期間
平成28年1月12日(火) から
平成28年1月25日(月) まで【消印有効】
- 入学者選考方法
入学者の選抜は、学力試験、小論文、面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 平成28年2月3日(水)
②試験科目及び時間等

◆一般選抜(修士論文・課題研究論文コース)

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:00	小論文
10:30 ~ 12:00	外国語(英語)
13:00 ~ 14:00	専門科目(専攻領域)
14:10 ~	面接

◆一般選抜(専門看護師[CNS]コース)

※感染看護学領域のみ募集

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:00	小論文
10:30 ~ 12:00	外国語(英語)
13:00 ~ 14:30	専門科目(CNS関連分野)
14:40 ~	面接

◆一般選抜(高度実践看護師コース)

※クリティカルケア看護学領域のみ募集

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:00	小論文
10:30 ~ 11:30	外国語(英語)
13:00 ~ 14:30	専門科目(関連領域の病態生理学)
14:40 ~	面接

◆社会人特別選抜(修士論文・課題研究論文コース)

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:00	小論文
10:30 ~ 12:00	外国語(英語)
13:00 ~	面接

注) いずれの選抜も、外国語(英語)の試験は、英和辞書(電子辞書は除く。)の持ち込みを認める。

- 合格者発表
平成28年2月10日(水) 午前10時ごろ
- 入学手続期間
平成28年2月12日(金) から
平成28年2月18日(木) まで
- 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

第42回医大祭に寄せて

実行委員長 医学部4学年次生 山本 乾人

平成27年10月31日（土）、11月1日（日）に第42回医大祭が開催されました。

今年のテーマは「軌跡」です。「軌跡」とは、今までの愛知医科大学の伝統を重んじながらも新しい未来に“歩”を進めていくことを意味します。

医大祭もこの数年、時代の移り変わりとともに色々と変化したように思います。その変化を受け止めた上で次の世代に伝えていき、どのようにすればより良い医大祭にすることができるかを考えたこの経験は、医師、看護師になってからもきっと役に立つと思います。そして、この経験を後輩に伝えていくことで、来年以降も学生が一丸となって新たな医大祭に向かって進んでいくことができると思います。

最後になりましたが、医大祭に携わって頂いた方々の多大なご協力により今年も成功を収めることができました。ここに深く感謝申し上げます。



愛知医科大学不老会会員の集い開催

平成27年度愛知医科大学不老会部会会員の集いが、平成27年11月7日（土）午前10時30分から、大学本館たばなホールにおいて開催されました。

当日は、不老会の役員及び各地域代表、本学部会員並びに一般の方の101名の参加があり、本学からは、岡田尚志郎医学部長、解剖学講座の中野隆教授、そして、関係教職員18名及び医学部学生27名が参加しました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、岡田医学部長及び不老会愛知医科大学部会の笠原英城部会長のあいさつがあり、来賓の北村直哉不老会理事長からごあいさつを頂きました。

最後に、学生体験を医学部学生の代表として3学年次生の蓬萊春日さんから「解剖学実習では、実際に自分の目で見て、手で触れることで、言葉や図では捉えることのできなかつた人体の立体的な構造を学ぶことができました。それは、実習を始める前の知識をより深いものへと変え、新たな疑問や思考を導き、解剖学の理解をより一層深めてくれました。私が勉強させて頂いたご献体では、発生的にも非常に興味深い所見があり、平成28年3月福島県で開催される日本解剖学会において、発表させて頂く予定です。医師をめざす私たちは、たくさんの方々に支えられていて、様々な決意や決断の上に成り立つ医学を学ぶことの重みを改めて自覚するとともに、こ



あいさつする岡田医学部長

のような大変貴重な機会を頂いたことに深く感謝しております。不老会会員の皆さま方、また、ご家族の方々のご理解とご厚意に深く感謝し、私たち一同、心からお礼申し上げます。」と感謝を込めた発表がありました。

会員の集いに引き続き、本院総合診療科の伊吹恵里教授（特任）から「すこやかなシルバーエイジ（老年期）をすごすために」をテーマに記念講演が行われ、参加者に分かり易く講演されました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との懇談会が和やかに行われ、参加者は医学部学生、教職員が見送る中をそれぞれ帰途につきました。

東海オンコロジー入門セミナー開催 ～がん医療の専門家育成をめざして～

本学は、平成24年度から国の補助金事業として実施されている「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に名古屋大学を始めとした近隣の医療系学部を有する6大学とともに参加していますが、この関連事業として、名古屋市立大学が運営、藤田保健衛生大学と共催で「東海オンコロジー入門セミナー」を開催し、各大学の教員が総論、各論をそれぞれ担当し、講義を行いました。

本セミナーは、平成27年11月7日（土）午後1時から名古屋市立大学病院において開催され、本学からは本院

輸血部の加藤栄史教授（特任）が総論として「化学療法時の輸血」を、臨床腫瘍センターの三原英嗣教授（特任）が各論として「悪性リンパ腫」をそれぞれ講義され、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに参加している大学や関連病院から比較的若手の医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフが熱心に聴講しました。

各講義の合間には、活発な質疑応答が行われ、特に若手のスタッフにとっては、がん医療に関する知識を深める良い機会となりました。

医学教育に関する講演会 開催

平成27年11月20日（金）午後5時30分から、大学本館202講義室において、筑波大学医学医療系地域医療教育学講師の阪本直人先生をお招きして、医学教育に関する講演会が開催されました。

阪本先生は、平成13年に本学を卒業され、亀田総合病院家庭医診療科でシニアレジデント、指導医、医長を経て、現在は、筑波大学で医師不足問題の対策に取り組んでおられます。

講演は2部構成で行われ、第1部では、「卒業生からのメッセージ～あなたにしかできない『医師・存在・人』になるために、いまからやっておくべき3つの戦略～」を、第2部では、「愛知医大卒業生からみた筑波大学の医学教育～国内最長の参加型臨床実習（78週）×先進的医学教育カリキュラム『新・筑波方式』の中身とは～」と題して、それぞれご講演を頂きました。

細川好孝教務部長、今井裕一医学教育センター長を始



め、本学の医学教育を担当する教員が多数出席し、国際認証に向けたカリキュラム改革への取り組みに非常に有意義な講演となりました。また、医学部学生も多く出席し、医師となる将来について考える契機にしていました。

日本私立医科大学協会 平成27年度第2回教務事務研究会開催

平成27年11月27日（金）大学本館第一会議室において、一般社団法人日本私立医科大学協会による平成27年度第2回教務事務研究会が開催されました。

この研究会は、全国の私立医科大学・医学部における教務事務の向上を図り、かつ大学相互の連絡を緊密にすることにより協会活動に資することを目的としているもので、加盟大学が輪番で当番校となって開催しています。

当日は、全国29大学の教学事務担当部長が集い、岡田尚志郎医学部長のあいさつにて始まり、協議事項を諮った後には、今井裕一医学教育センター長から「愛知医科大学における医学教育改革：国際認証に向けて」と題した講演が行われ、最後に、本学医学部における事務の概要について蓮池隆医学部事務部長から説明がありました。

研究会終了後には、レストランオレンジにて懇親会も



催され、談笑の輪の中で情報交換ができたことは大変有意義で、今後、本学での教学関係業務の向上につながるものになりました。

平成27年度第2回看護学部・看護学研究科FDセミナー開催

看護学部・看護学研究科における教育・研究指導上の問題点を明確にして、その解決方法を求めるとともに、看護系教員及び大学院生のレベルアップを図るためのFDセミナーが、平成27年12月21日（月）に開催されました。

今回は、愛知淑徳大学人間情報学部の山崎茂明教授を講師としてお招きし、「不正のない論文の書き方—公正な看護研究をめざして—」についてお話頂きました。セミナーの中で「私たちの生活の質と健全な社会は、多くの研究による知的基盤に支えられている。」と述べられ、その上で日本の生命科学・医学領域における論文の状況や最近発生した研究上の不正行為事件について話されました。

続いて、科学研究上の不正行為への基本的対応方針について述べられ、ミスコンダクトの定義としては、「研究の申請、実行、審査、研究結果の報告などの諸側面における、捏造、改ざん、盗用」であり、研究の実行段階だけでなく、助成申請時の不正、論文審査時にも含まれると説明されました。

また、研究発表倫理の重要課題として、オーサーシップとレフェリーシステムについて説明があり、論文の著者・オーサーシップの条件は、①研究の着想、データ収集と解釈への貢献、②執筆への寄与、③出版のための最終原稿への同意、④論文の各部分の正確性・公正性に



関する疑問が調査され解決しており、論文のすべてに責任を持つことへの同意が追加されていると話されました。

まとめでは「大切なのは、大学の心臓である公正さと大学に対する社会からの信頼を保持することであり、公正な科学研究を発展させることに大学は強い関心を持つべきである。」と締めくくられました。

講演後の質疑応答では、看護研究の中の「不正と見間違われるような分割投稿」、指導教授との関わりの中での倫理に関するジレンマが挙げられ、ディスカッションが行われました。

看護学部FD委員会では、今後も教育研究の質向上に積極的に取り組んでいきます。

看護学研究科初となる特定行為研修修了者へ修了証を授与

本学大学院看護学研究科（クリティカルケア看護学領域）は、平成27年10月1日付けで、厚生労働省から「特定行為研修機関（21区分38行為）」として指定を受けました。

本大学院では、平成25年度からNP（ナースプラクティショナー）教育を実施しており、今回の特定行為研修で必要とされる教育の大半を既に受講している3名の修了生が医療現場で活躍しています。特定行為研修管理委員会では、既修了生に対する対応について検討を行い、特定行為教育の履修免除（教育内容の読替）及び不足科目の補習授業（試験）の実施に取り組みました。

また、平成28年1月25日（月）には、三宅養三理事長から3名に修了証が授与され、厚生労働省に対し、特定行為研修修了者として報告されました。



特定行為研修修了者
(左から)黒澤昌洋さん、森一直さん(本院)、
伊藤美佳さん(中京病院)

災害医療研究センター 大学院特別講義開催

平成27年11月20日（金）午後5時30分から大学本館201講義室において、災害医療研究センター主催による大学院特別講義が開催されました。

山形県立中央病院副院長兼山形県立救命救急センター副所長の森野一真先生を講師にお招きし、「大災害時に見えてくる課題」をテーマに災害医療の最新知見を中心とした講義が行われました。

災害とはそもそもどんな状況を意味するのかという興味深い切り口から始まり、森野先生のこれまでの豊富な災害医療支援の実体験を中心に、災害発災直後の超急性期から慢性期、そして復興期にわたるシームレスな医療介入の重要性が強調されていたのが印象的でした。

特に救護所における生活のクオリティや救援物資の適正配分など、20年前の阪神・淡路大震災の教訓を東日本大震災で活かさきれず、まだまだ解決すべき課題は山積みしているという意見も紹介されました。一方、昨今の国民の災害への関心の高まり、自治体の積極的な取り組みなど社会は防災、減災に向けて着実に歩み始めているこ



講演する森野先生

とも強調されました。

質疑応答では、大学院生のみならず学部生や参加者からも多くの質問があり、「改めて災害医療の重要性を強く感じた。」「漠然とした災害医療に関する知識が刷新できた。」などの意見がありました。

造血細胞移植振興寄附講座 特別講演会開催

平成27年11月2日（月）午後6時から、大学本館たちばなホールにおいて、ドイツLeipzig大学医学部から血液内科教授であり、WBMT（世界造血細胞移植ネットワーク）前理事長のDietger Niederwieser先生を講師にお招きし、造血細胞移植振興寄附講座主催による特別講演会が開催されました。

講演会は、欧州、北米、アジアのグループを3本柱として構築し、現在では24の国際組織を束ねて、WHOの公認NGOとなったWBMTの歩みと活動を中心とした造血細胞移植医療の世界情勢と将来展望に関するものであり、参加者に大きな感銘を与えました。

また、Dietger Niederwieser先生は、平成27年11月1日付けで本学の客員教授にご就任され、講演会の冒頭で佐藤啓二学長から委嘱状の交付を受けました。

講演会を主催した造血細胞移植振興寄附講座の小寺良尚教授から「Niederwieser先生は、欧州で最もアクティビティーの高い施設の一つであるLeipzig大学の現役教授ですので、客員教授になられたのを機に本学の若い



記念撮影
(左から三宅理事長、小寺教授、Dietger Niederwieser先生)

方々が気楽に博士の施設を訪れられる契機になれば幸いです。また、この講演会開催に際して、愛恵会から頂いた多大なご援助に心よりお礼申し上げます。」と言葉を頂きました。

平成27年度愛知県災害医療コーディネーター研修開催

平成28年1月30日（土）・31日（日）愛知県医師会館において、本学を始め、愛知県及び愛知県医師会の三者共催による平成27年度愛知県災害医療コーディネーター研修が開催されました。

県内における医療調整機能の強化を図ることを目的として、災害時に医療チームの派遣調整、患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等を対象に開催され、活動に必要な知識の習得と県共通の認識を共有するための研修プログラムに基づき、座学よりグループディスカッションに重視した構成となっていました。また、本学災害医療研究センター教員が所属する災害医療ACT研究所から講師が多数派遣され、2日間にわたり、研修を運営して頂きました。

研修会には、地域災害医療コーディネーターを始め、県内の保健所や各地域の医師会から2日間で91名の参加者が集まり、各地域の災害想定等を地図に書きながら、救護計画の策定や本部運営・救護班調整演習を行いました。今後も本学は災害医療研究センターが中心となり、このような公共性の高い有益な事業を展開する予定です。



世界糖尿病デーin愛知医大 開催

全国糖尿病週間である平成27年11月9日（月）～13日（金）の期間中、中央棟オアシスホールにおいて、平成27年10月1日付けで新たに設置された糖尿病療養支援チームによる糖尿病啓発を目的とした「世界糖尿病デーin愛知医大」が開催されました。

糖尿病の患者さんのみならず、全ての来院者を対象として開催されたイベントであり、ポスター展示には681名、疑似バイキング体験コース「カロリー当てクイズ」には161名、糖尿病ミニセミナーには54名と多数の方にご参加を頂き、とても好評でした。

これまででも、糖尿病看護認定看護師や糖尿病療養指導士を中心としたコメディカルスタッフが主体となり、糖尿病療養支援を継続的に行ってまいりましたが、今後は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、理学療法士、臨床心理士、歯科衛生士が糖尿病療養支援チームとして、糖尿病の発症予防・重症化予防、糖尿病合併症の発症予防、進展阻止を効果的に実現するために、糖尿病の患者さんに対して自己管理教育や療養支援を実施していきます。



愛知臨床研修セミナー開催

平成27年11月27日（金）大学本館302講義室において、本院卒後臨床研修センター主催による愛知臨床研修セミナーが開催されました。

このセミナーは研修医の臨床教育の一環として、プレゼン能力と知識の向上をめざして年2回開催されており、本院研修医1年目の岸野孝昭先生からは「コンビニAEDを用いて市民によって電氣的除細動され社会復帰したBrugada症候群の一例」について症例報告があり、豊田厚生病院とトヨタ記念病院の研修医からも症例報告がありました。

また、特別講演として小説「神様のカルテ」著者の夏川草介先生による講演会が開催され、「物語力を通じて共感する力を養うこと」、「時代を越える普遍性を持つ作品を読むこと」、「命に対する謙虚さを」、「医師以外の人と会い、自分の（心や思考の）バランスを確認すること」、「どんな医者になればいいのか、それを悩む奴が『いい医者』になる～神様のカルテより～」など出席者の心に響くメッセージに溢れた講演になりました。

当日は、研修医や学生約130名の出席があり、とても活発な質疑応答が行われました。



症例報告する岸野研修医



講演する夏川先生

平成27年度愛知DMAT隊員養成研修会

平成27年度愛知DMAT隊員養成研修が平成28年1月10日（日）、11日（月・祝）の2日間にわたり、本看護学部棟を主会場として開催され、県内から医療関係者約100名が参加しました。

この研修会は、愛知医科大学病院が基幹災害拠点病院であることから、愛知県からの委託を受けて毎年開催されているものです。

DMAT（災害医療派遣チーム）は、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとってDMAT（ディーマット）と呼ばれており、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。厚生労働省が全国の医療機関に1,000チームの配備を目指しており、東日本大震災を始め、伊豆大島、広島での土砂災害、御嶽山噴火による火山災害では、発災後直ちに該当チームが被災地に入り活動するなど、その災害対応力は高く評価されています。

今回の研修会は、今後日本DMAT隊員とともに活動することが見込まれる医療機関の職員を対象に、災害医療に関する研修を実施して、県内での災害時の医療体制を強化することを主目的に開催されました。受講修了者は、愛知DMAT隊員として、その後全国レベルでの追加研修を受講することにより、日本DMAT隊員の資格



を得ることができます。

研修会では、日本DMATインストラクターで本学職員の中川隆教授（災害医療研究センター）、川谷陽子主任（看護部）、小澤和弘助教（災害医療研究センター）が主に企画・運営し行われ、参加者は真剣な表情で研修に取り組んでいました。

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

平成27年12月10日（木）午後1時30分から8A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。

当日は、スタッフによるパフォーマンスなどイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、またご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



メディカルクリニックでは、平成27年11月から、黄ばみや変形など老朽化が目立つ従来の案内表示板等の更新に合わせ、患者さんにとって情報や動線が分かりやすく、利便性と安全性に優れた院内サインにリニューアルしました。

新たな院内サインは、オアシスホスピタル（本院）の附属施設として、オアシスを形成する命の循環の延長線に位置づき、基本色である大地のカラーをベースに、青い空、そして樹木が育ちたくさん葉を付けているそんな自然な空間をカラーで表現し、「癒し」や「やすらぎ」を意図しています。

平成27年12月に実施した外来患者満足度アンケートにおいては、「きれいな色を使っているので、院内の雰囲気明るく、見やすく、とても良くなった。」などのご意見を頂きました。

メディカルクリニックでは、これからも新たな院内サインなどを活用し、患者さんにとってより一層スムーズで安心できる医療の提供に努めて参ります。



有村和人助手、森下裕司主任 医学教育等関係業務功労者表彰受賞

本学医学部解剖学講座の有村和人助手と、本院歯科口腔外科の森下裕司主任が、平成27年12月2日（水）に文部科学大臣から、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に授与される、医学教育等関係業務功労者表彰を受賞されました。

表彰を受けられた有村助手から、「解剖関係業務に就いて33年が経ちました。この間、解剖に係る法令等の改正や指針もあり実習環境が整備されてきました。この度、このような名誉ある賞を頂き大変光栄なことで存じます。これも皆さま方のご指導の賜物だと感謝いたしております。ありがとうございます。これを励みにより一層ご期待に添うよう精進して参ります。」、森下主任から、「このような栄誉ある賞を頂けたのは、歯科口腔外科スタッフの指導、協力があつてのことと思います。今後も愛知医科大学病院を支えるチーム医療の一人として、更に研鑽を重ねて参りたいと思います。ありがとうございます。」と喜びの言葉を頂きました。



有村助手



森下主任

卒後臨床研修センター 武中優臨床研修医 第85回日本感染症学会西日本地方会学術集会(3学会合同開催) 優秀演題賞受賞

本院卒後臨床研修センターの武中優研修医が、平成27年10月15日(木)から17日(土)奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～において開催された「第85回日本感染症学会西日本地方会学術集会／第58回日本感染症学会中日本地方会学術集会／第63回日本化学療法学会西日本支部総会(合同開催)」において、優秀演題賞を受賞しました。

同賞は、同会で発表された演題の中から、武中医師が発表した「複数のリスク因子を背景に発症したListeria monocytogenesによる感染性内膜炎の一例」が感染症学の発展に大きく寄与するものとして高く評価されたものです。

表彰を受けた武中医師から「この症例発表を通じ、先人の経験した治療法を検索し応用する方法や後方視的な統計解析的手法について学ぶことができました。今回の



会場にて(武中医師(左)と三鴨教授(右))

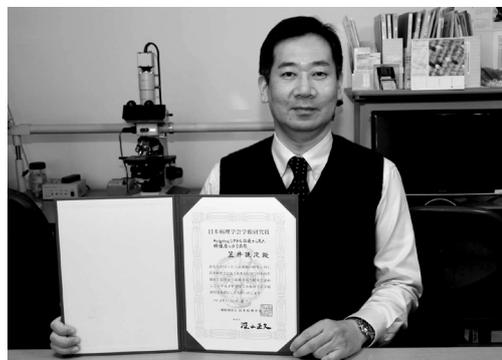
受賞は三鴨廣繁教授、平井先生を始め、感染症科の先生方の熱心で親切なご指導の賜であり、これからの私の医師人生の礎にしたいと考えています。本当にありがとうございました。」と感想がありました。

病理学講座 笠井謙次准教授 日本病理学会学術研究賞受賞

本学医学部病理学講座の笠井謙次准教授が、平成27年11月5日(木)・6日(金)に東京大学安田講堂で開催された第61回日本病理学会秋季特別総会において、日本病理学会学術研究賞を受賞しました。

これは、日本病理学会学術評議員が日本国内で行った優秀かつ長年にわたって蓄積された研究に対して授与されるもので非常に名誉かつ伝統ある賞で、笠井准教授が研究してきた「Hedgehogシグナル伝達から見た睪臓癌の分子病態」が高く評価されたものです。

表彰を受けた笠井准教授から「病理研究の先達が受賞されてきた伝統ある本賞を頂き、また、東大安田講堂での秋季特別総会において、受賞演説(A演説)の機会を得て、大変光栄に存じます。益々の精進を期するとともに、池田洋教授、佐賀信介教授を始め病理学講座の皆さまのご指導とご協力に感謝いたします。」と感想がありました。



医学研究科3年 Kulrawee Sidthipongさん 第10回国際化粧品皮膚科学会 最優秀ポスター受賞

平成27年11月14日（土）～16日（月）ブラジルリオデジャネイロで開催された第10回国際化粧品皮膚科学会において、大学院医学研究科3年のKulrawee Sidthipong（クルラウィ・シティポン）さんが最優秀ポスター賞を受賞しました。

同賞は、ポスター発表の中から優秀賞（5題）が選出され、その後5名の発表者による口頭発表において、最も優れた発表に贈られる非常に名誉ある賞で、世界各地から集まった60演題から、Kulraweeさんが発表した「NF-kappa B inhibitor (-)-DHMEQ as an anti-inflammatory agent in cosmetics」が学術的に優れた発表であると評価されました。

表彰を受けたKulraweeさんから「私たちの見出した新しい抗炎症剤の毒性が低いことから、化粧品添加物としても使えるかもしれないという発表をさせて頂きました。また、今回の受賞をとってもありがたく、名誉なことだと思っています。指導教授であり、今回の共同発表者



口頭発表するKulraweeさん

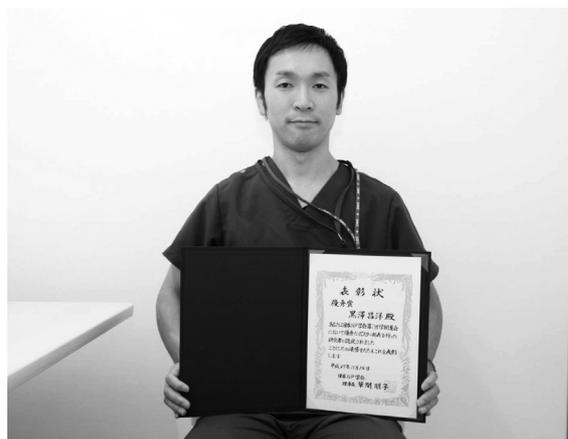
の梅澤一夫教授及び研究や発表の機会を与えて頂いている愛知医科大学にとっても感謝しています。これからも医薬や化粧品に役に立つ研究を続けていきたいと思えます。」と感想がありました。

看護部（麻酔科） 黒澤昌洋診療看護師 日本NP学会第1回学術集会優秀賞受賞

本院看護部（麻酔科）の黒澤昌洋診療看護師が、平成27年11月14日（土）に大分県立看護科学大学で開催された日本NP学会第1回学術集会において、優秀賞を受賞しました。

これは、黒澤診療看護師の発表した演題「ナースプラクティショナー・特定行為に係る看護師の研修制度に関する看護師の意識調査」がNPの発展に寄与するものとして評価されたものです。

表彰を受けた黒澤診療看護師から「日本NP学会が設立され、第1回学術集会が開催されました。この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。これも皆さま方のご協力並びにご指導のおかげと感謝しております。今後ともNPとして社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思えます。」と感想がありました。



事務職員資格取得

事務部門では、正確かつ効率的な業務遂行能力を高める人材育成の一環として、学校及び病院の運営に必要とされる実務知識の習得を目的とした、資格・検定取得に積極的に取り組んでいます。平成27年は計5名の職員が、各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。

習得した知識を業務に活かして頂き、引き続き更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



日商簿記検定3級	財務・管理室 白頭実季主事, 大西加珠季主事
知的財産管理技能士3級 知的財産管理技能検定3級	総務部研究支援課 古山昂勢主事
第三種電気主任技術者	施設・建設室 大森俊直主事
I Tパスポート試験 MOS (Access2010)	看護学部事務部教学課 野々健太主事

平成27年度冬のハラスメント防止活動

平成27年12月4日（金）から12月10日（木）の人権週間に因んで、ハラスメントの防止に向けた啓発活動を、大学本館7階701会議室を会場として次のとおり実施しました。

(1) ハラスメント防止DVD（セクハラ、パワハラ）の視聴会の実施

- ・実施期間 12月8日（火）・9日（水）
- ・実施内容 各4回の時間帯に分けてDVDを放映（2本で約20分～30分間）

(2) 臨時相談窓口の開設

- ・実施期間 12月8日（火）・9日（水）
- ・実施内容 各3回の時間帯を指定して窓口を開設

(3) ハラスメント防止ポスターの掲示

- ・実施期間 12月4日（金）～12月10日（木）
- ・実施内容 パブリック・スペースを中心に学内各所へ掲示

啓発活動を実施した結果、「(1) ハラスメント防止DVDの視聴会」には、延べ14名の参加者がありました。参加者のアンケート結果では、視聴の評価として「良かった」、「大変良かった」と回答された方が、セクハラで67%、パワハラで73%でした。昨年度に比べて若干減少の結果となりましたが概ね好評な結果となりました。

また、「(2) 臨時相談窓口の開設」では、1名の相談者がありました。困った時は一人で悩まず、携帯用の『啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号や専用メールアドレスを利用して相談するように心がけて頂きたいと思います。「(3) ハラスメント防止ポスター掲示」については、パブリック・スペースなどに掲示し注意喚起を促しました。

今後、更に『ハラスメントのない明るい職場作り』にご協力をお願いします。

「本の福袋」が登場

平成28年1月5日(火)～30日(土)にわたり、医学情報センター(図書館)エントランスにおいて、初売りでよく見かける“本の福袋”のコーナーが登場しました。これは、「いつもとは違うジャンルの本に出会うきっかけを作りたい!」との思いで企画したものです。

各福袋は、英字新聞を再利用して作った袋の中に、1～2冊の本を入れたもので、15セット(28冊)を用意しました。選書には図書館員だけでなく、医学情報センター運営委員会の方々にも参加して頂きました。福袋ですから中に何が入っているかわからない所が楽しみですが、少しくらいのヒントが欲しいものです。そこで選書者が考えた推薦理由やコメントを付けました。

福袋の前で立ち止まる姿も多くみられ、今まで一度も利用のなかった図書も貸し出されました。図書館には、



医学・看護学以外の一般教養書も所蔵しております。

今後も様々な展示や企画を予定しております。多くの方のご来館をお待ちしています。

図書館連携による健康支援事業(めりーらいん)講座 「上野千鶴子講演会」開催

平成28年1月9日(土)瀬戸市瀬戸蔵つばきホールにおいて、めりーらいん健康支援事業主催・(一財)愛知医科大学愛恵会協賛による「上野千鶴子講演会:介護することされること～弱者が弱者のまま尊重される権利～」が開催されました。

講演会の整理券は早い段階で配布終了となり、当日は約230名の参加がありました。

講演を行った上野氏の「『ケア』は相互行為であるため、ケアする側、ケアされる側ともに幸せでなくてはならない。ケアされる側は、もっと自己主張しよう。」という話に熱心にうなずきながら、耳を傾ける参加者の姿が多くみられました。質問タイムでは、フロアとのやり取りも盛んに行われ、あっという間に閉演時間となりました。

当日は、上野氏の講演の他に、尾張旭市健康づくり推



進員の健康体操、本学運動療育センター運動技術員の渡辺幸江さんの体操指導もあり、会場は終始リラックスした雰囲気でした。

第4回主催公演事業

平成27年12月5日（土）一般財団法人愛知医科大学愛恵会主催の第4回主催公演事業が開催されました。

オープニングコンサートでは、モンゴル出身のシンガーソングライターオユンナさんの迫力ある歌唱力に、観客の皆さんが魅了されていました。続いて、元プロレスラーで数々のタイトルを獲得した小橋建太さんの「腎臓がんからの奇跡の復活～この一瞬を大切に生きる～」と題した特別公演が行われました。公演の中で小橋さんは、先生から病を宣告され、もう選手生命を諦めるように言われたが、奥さんを始め多くの方のサポートを受けて懸命にリハビリを行い、再びリングに上がるという奇跡の復活を遂げるまでの自身の道のりについて熱く語って頂きました。公演終了後は、多くの観客が写真撮影やサインに詰めかけ、最後の一人まで丁寧にご対応されました。

その後、歌手の刀根麻里子さんのミニライブを挟み、

小橋建太さん、オユンナさん、刀根麻里子さん、羽生田正行病院長による、「病気が教えてくれた大切な命（いのち）」と題した座談会が、タレントの山口千景さんの進行で行われました。皆さんが個々に行っている健康法の話になると、観客も交えて大いに盛り上がるなど、大変有意義な座談会になりました。

最後は、小橋さんの十八番である「いくぞー！」の掛け声に、観客が「おー！」と応え、元気よく締めくくられました。

「体験教室」では、アロマハンドマッサージ、毛髪技能士による頭皮チェックが開催され、多くの参加者で賑わい、いずれも好評でした。

また、JAあいち尾東による「産直（野菜）販売」も同時に実施されました。



献血ご協力ありがとうございました

平成28年1月12日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成28年7月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 41名
・ 献血できた方	・ 35名
	(400ml・32名)
・ 献血できなかった方	・ 6名

学 術 振 興

平成28年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域・終了研究領域)	8	38,230
基盤研究 (B) 一般	8	59,187
基盤研究 (C) 一般	101	191,079
挑戦的萌芽研究	15	30,656
若手研究 (A)	2	29,827
若手研究 (B)	48	92,629
合 計	182	441,608

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



水野 昌平

学位授与番号 甲第454号

学位授与年月日 平成27年12月24日

論文題目:「Overexpression of salivary-type amylase reduces the sensitivity to bortezomib in multiple myeloma cells (アミラーゼ産生性骨髄腫細胞はボルテゾミブに対する感受性が低下する)」



堀田 和男

学位授与番号 乙第378号

学位授与年月日 平成27年12月24日

論文題目:「Lack of Contribution of Multidrug Resistance-associated Protein and Organic Anion-transporting Polypeptide to Pharmacokinetics of Regorafenib, a Novel Multi-Kinase Inhibitor, in Rats (ラットにおいて多剤耐性タンパクおよび有機アニオン輸送ポリペプチドは新規の多標的キナーゼ阻害剤レゴラフェニブの薬物動態に寄与していない)」



谷 浩也

学位授与番号 甲第455号

学位授与年月日 平成28年1月14日

論文題目:「Optimization of cluster analysis based on drug resistance profiles of MRSA isolates (MRSA分離株における薬剤感受性結果を用いたクラスター解析条件の最適化)」

研究助成等採択者

○公益財団法人愛知県健康増進財団平成27年度医学研究・健康増進活動等の助成事業

●氏 名 松下宏 (産科・婦人科・講師)

研究題目 子宮体癌と体脂肪分布の関連についての臨床病理学的研究

助成金額 500,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第30回日本女性医学学会学術集会
- ・第25回日本健康医学会総会
- ・第30回日本糖尿病合併症学会

【開催日】

- 平成27年11月7日(土)・8日(日)
- 平成27年11月21日(土)
- 平成27年11月27日(金)・28日(土)

【会長等】

- 若槻 明彦
- 福沢 嘉孝
- 中村 二郎

第30回日本女性医学学会学術集会

平成27年11月7日(土)・8日(日)メルパルク名古屋において、第30回日本女性医学学会学術集会を開催しました。

本学会は、「女性医学の未来像を考える」をメインテーマとして開催され、女性のライフステージに応じた健康管理の進歩・発展に関する多くの特別講演やシンポジウム、ワークショップが企画され、地方都市開催にも関わらず、過去最多の1,181名に参加を頂き、四つの会場全てが熱気に包まれました。

主なプログラムとしては、女性アスリートに対するヘルスケアの必要性が指摘されていることから、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副会長を

産婦人科学講座・教授 若槻 明彦 務められた前文部科学副大臣・衆議院議員の丹羽秀樹先生より特別招待講演を賜り、また、メラトニン研究の第一人者であるテキサス大学のRussel J Reiter先生より記念海外招請講演、中高年女性のQOLと密接に関連する睡眠障害の診療について、本院睡眠科教授の塩見利明先生より特別講演を頂きました。

更に一般演題も、119演題と過去最多の応募を頂き、活発な質疑応答がなされました。

末筆となりましたが、本会の開催に当たり、皆さまに多大なるご支援ご協力を賜りましたこと心より御礼申し上げます。

第25回日本健康医学会総会

平成27年11月21日(土)大学本館講義室及びたちばなホールにおいて、第25回日本健康医学会総会を開催しました。

本学会は、健康寿命延伸と健康強化推進に関連する全国規模の学会で非常に権威あるものです。

今回は、メインテーマとして「健康寿命延伸の秘策」を掲げ、そのテーマと密接に関連するシンポジウムとして、会長講演「《未病の段階からセルフメディケーション》先制医療による(超)早期診断と健康寿命延伸の秘策ー大学病院における国内外初のmRNA(マーナ)健康外来設立ー」、国立保健医療科学院首席主任研究官の水島洋氏による特別講演「病気を予防するための早期リスク診断とその意義」、元中日ドラゴンズ投手の朝倉健太氏による特別講演「プロ野球選手としての日々の健康への

先制・統合医療包括センター・教授 福沢 嘉孝 配慮」の3題の講演を実施しました。その他にも、選りすぐりの一般演題も同時に2会場に分かれて実施し、いずれの演題も質の高い内容であり、関係者を含め約100名にご参加頂き盛会裏に終了することができました。また、総会には三宅養三理事長も出席され、情報交換会には島田孝一法人本部長も参加され、大変実り多き総会になりました。

今回の学会開催に当たり、学会本部、一般財団法人愛知医科大学愛恵会、一般社団法人愛知医科大学同窓会(愛橘会)からご支援・ご協力を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。

また、学会主催に当たり、ご支援・ご協力頂きました弊センター関係者並びに医学部学生にも心よりお礼申し上げます。

第30回日本糖尿病合併症学会

平成27年11月27日（金）・28日（土）ウインクあいちにおいて、第30回日本糖尿病合併症学会を開催しました。

本学会は、「糖尿病性合併症克服の志を胸に」をテーマに第21回日本糖尿病眼学会との共催で行われました。

学会では、七つのシンポジウム及び八つの教育講演に加えて、ワークショップとして113題の発表がありました。また、今回は第30回という記念すべき学会であり、中部労災病院名誉院長の堀田饒先生より「30周年記念特

内科学講座（糖尿病内科）・教授 中村 二郎 別講演」において「日本糖尿病学会の軌跡」をご講演頂きました。

2日間で1,000名以上の参加者があり、いずれの会場においても活発な議論が行われ盛会裏に会を終えることができました。

本学会の開催に当たり、関係者の皆さまより多大なるご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。（敬称略）



サイチット クム アン
Saichit Khummuang

国籍：タイ

現職：チェンマイ大学医療科学部医療技術
講座臨床免疫学部門研究協力員

受入講座：分子医科学研究所

研究期間：H27. 11. 1 ~ H28. 10. 31（1年）

研究課題：免疫細胞に発現する糖鎖の同定と同糖鎖の機能解析

（サイチットさんからの一言）：My name is Saichit Khummuang, a PhD student in Biomedical Sciences Programs from Chiang Mai University, Thailand. I got the Thailand Royal Golden Jubilee scholarship to research at Institute for Molecular science of Medicine for 1 year under supervisor Prof.Dr.Watanabe Hideto. My Project entitle of “The role of glycan in natural killer cell-mediated immunity”. Now, we try to identify the specific epitope that it will be useful as a NK cells functional marker for health and disease. For my first impression here is the hospitality from everybody. There are many beautiful scenes around this university that I can relax after work. Thank you very much.



タナピラット マメ トン
Thanaphirat Mamaethong

国籍：タイ

現職：ラジャヴィチ病院麻酔科医
受入講座：麻酔科学講座

研究期間：H27. 11. 2 ~ H28. 10. 31（1年）

研究課題：日本における麻酔管理（超音波ガイド下末梢神経ブロック、呼吸循環管理、気道管理法、術後鎮痛など）の研修

（タナピラットさんからの一言）：I have been received a good opportunity from Professor Fujiwara to let me study and practice about Ultrasound-guidance for peripheral nerve block here. My first impression of Aichi Medical University Hospital is the modern building and the beautiful environment around hospital. The operating rooms and GICU are fully provided with the modern medical equipments, monitors and medications. All of staffs are hardworking person and dedicated to work for patients' sake. These are very admirable. This place has the good educational environment for learning too. Professor Fujiwara and his colleagues are expert in this field, which can teach me and advise me a lot. The ultrasound devices are good model and display the best image. That make the practice is more easily for the beginner like me. Furthermore, all of staff in Anesthesiology department and operating room nurses are very kind and support my practice too. I really glad that I have been here. Thank you very much.

死因究明の向上を目指して

法医学講座 教授 妹尾 洋

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

現在わが国では、内閣府に死因究明等施策推進室が置かれ死因究明等の推進を計りつつある。監察制度などの死因究明制度が整っていないわが国では、異状死体の検案は、法医の医師ではなく、一般には臨床医、特に開業医が行う場合が多い。

このような現状を踏まえ、本講座では、臨床医になってから検案依頼を受けた際に対処できるようにと考えながら講義を行っている。検案はあくまで死体の外表検査となるが、講義では、生体をみる医師が通常は見る機会のない法医解剖で得られた様々な症例の内部所見と合わせてスライドで示し、内部所見を含めた知識を深め、実際の検案時に役立つことができると考え、講義を進めている。目標として死体検案、死因推定、死後経過時間推定、更には死亡診断書（死体検案書）の作成に至るまでといった、一般の臨床医に必要な事項の習得を目指している。すなわち、講義内容はわが国の特性に合わせた非常に実務的な内容となっている。このようなことから分かるように、法医学は社会医学の中に位置づけられているものの、衛生学や公衆衛生学とはかなり趣を異にしている。

法医学の講義は、現行のカリキュラムでは医学部3学年次生で行われているが、学生のうちはなかなか検案や死亡診断書などの重要性が分からないことが多く、その知識の重要性をこの学年で伝える事は大変困難な面もある。そこで、できるだけ学生が興味を持てるような内容を工夫して教育を行っていきたいと考えている。



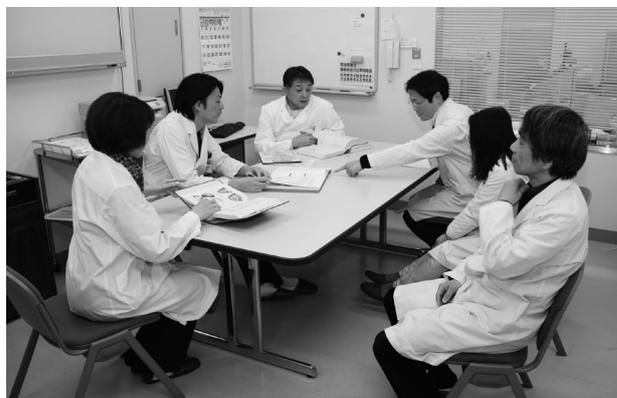
【世界に発信する医学研究】

法医実務には解剖だけでなく、それに伴う各種検査がある。その中でも、薬毒物分析は非常に重要な部分を占めており、本講座では実務に直結した薬毒物微量分析を行っている。死体から採取した試料中の既知、未知種々の薬毒物を分析しなければならないが、限られた量の採取しかできなかつたり、腐敗死体等死体の状態によっては血液や尿が採取できない場合も多々ある。このような状況の下、我々はその都度、どのような試料を用い、どのように目的物質を抽出し、検出を行うかを考えている。また、血液に関しては、血液様の液体が採取できたとしても、死後変化による溶血などのため血清分離ができないことも多く、臨床検査で試料として通常用いられる血清等ではなく、全血を試料として、そこからどのように目的物質を分離・精製し分析していくかを検討することも重要な課題となる。そこで、微量試料中目的物質を簡便に短時間で分離・精製し、高感度薬毒物分析を行うための分析法の開発という法医実務に直結した研究を行っている。

近年、巷の危険ドラッグなどの薬物汚染の影響から薬毒物分析の重要性は増すばかりである。これからも実務に直結した分析法の開発を進めていく予定である。

【講座からの一言】

臨床医になってから実際に役に立つような教育を目指し、法医実務に直結した研究を進めていきたい。



規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

就業規則の一部改正

学校法人愛知医科大学就業規則の一部が改正され、番号法の施行に伴い、個人情報及び特定個人情報の適正な取扱いについて明示するため、関係条文が整理されました。

施行日は平成27年12月14日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年12月15日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学特定個人情報取扱規程
- ・特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護に関する規程

臨床系教員学外研修取扱規程の制定

本学の臨床系教員が平日時間内に勤務場所を離れて研修としての診療を行うことに係る取扱いについて整備するため、臨床系教員学外研修取扱規程が制定され、学外研修の定義、申請手続き等が定められました。

施行日は平成29年4月1日（平成28年1月4日付けで公示）

学生の表彰に係る規程の一部改正

学生の表彰に係る規程の一部が改正され、被表彰者に授与される記念品のデザインが改められました。

施行日は平成27年11月1日

病院倫理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院倫理委員会規程の一部が改正され、病院倫理委員会の委員構成等が整理されました。

施行日は平成27年12月1日

病院倫理審査実施規程の一部改正

愛知医科大学病院倫理審査実施規程の一部が改正され、病院倫理審査における研究責任者の資格要件、研究範囲等が整理されました。

施行日は平成28年1月1日

「病院における医学研究に関する補償方針」 の裁定

平成28年1月1日付けで「病院における医学研究に関する補償方針」が病院長裁定され、本院において医学研究を実施する場合の被験者に対する補償措置等が整備されました。

周術期集中治療部規程の一部改正

愛知医科大学病院周術期集中治療部規程の一部が改正され、「術後集中治療室（SICU）」の名称が「総合集中治療室（GICU）」に改められました。

施行日は平成27年12月1日